

血液型性格判断の概観

Survey of the Character Judging by Blood Groups

白 佐 俊 憲

Toshinori SHIRASA

I はじめに

近年、ABO型の血液型と性格との間に関係があるという本が非常に売れている。雑誌のタレント紹介記事には、必ずといってよいぐらいその人の血液型が記載されている。大衆雑誌、特に女性雑誌では、血液型関連記事が目玉の一つになっている。そして、毎日新聞社の「この時代の時代」全国世論調査（1985年12月実施、20歳以上の者2,320人対象）によると、占いを信じる者は33%と少ないが、血液型が性格や相性と関係があると思う者は64%に達している。これらのことは、「血液型と性格とはなんらかの関係がある」と信じている人が非常に多いことを意味している。

本稿は、文献研究をとおして、血液型性格判断ブームの現状を分析し、歴史的背景や問題点を探り、その対処法について指針を示そうとするものである。また、後続研究者の便宜を図るために、文献目録を整理することも目的とした。

収集文献は、数種類の図書目録を丹念に調査することを中心に、血液型性格判断及びこの関連領域に関する文献をできるだけ多くリストアップしてみた。これらは、年代順に整理し、単行本と論文等に分けて、末尾に「血液型に関する年次別文献目録」として収録する。ただし、主なものは網羅し得たと思われるが、この種の文献には様々なものがあり、特に、一般雑誌・週刊誌等では、小さな記事として書かれたものが数多くみられるので、それらを加えると、実際には膨大な数に達すると思われる。

II 血液型性格判断の現状と背景

性格理解の手掛かりとして、なぜこれほどまでにABO式血液型がもてはやされるようになったのであろうか。この理由には、次のことが考えられる。

- ① 誰でも自分の血液型を知っている。したがって、「あなたは血液型は何型」と聞かれても、誰もが自分の血液型を答えることができる。
- ② ABO型の血液型には、A型・B型・O型・AB型の4種類しかない。極めて単純な区分けである。単純明快であるから、誰にでも理解できる。
- ③ 血液型は、完全に遺伝で決まる。もし、基本的に性格が遺伝によって規定されていて、性格と血液型とが関係あるとすれば、血液型がわかればその人の性格を簡単に言い当てること

ができることになる。

④ 「血は水より濃い」とか「血は争えない」とかいわれ、血は非常に神聖であり、人間の原点であると受けとめられる。それほど大事なものだから、きっと人間の精神状態（性格）にも影響を与えるだろうと考えられる。血液と精神状態との関係を表した言葉には、「血が騒ぐ」などというものもある。

今日、若い女性たちを中心にまんえんしている血液型信仰は、血液型シンドロームとも呼ばれる現象を呈している。女子生徒・学生など若い女性は、血液型に多大な興味を示し、ほとんど無条件にそれを信じ込んでいるように思われるのであるが、その理由として、次のことが考えられる。

① 一般に、活字で書かれているものは正しい、と信じてしまう傾向がある。数多くの血液型性格判断に関する本が出版され、ずらっと書店に並んでいるのを見ると、書かれている内容には科学的な根拠があると思ってしまう。

② 似通ったアプローチの仕方に、体型（体格）と性格との間に関係があるとした類型学がある。これは科学的な根拠が示されているので、これを引き合いに出しながら説明されると、無批判に血液型と性格との間にも関係があると信じてしまいがちになる。

③ 本の説明を読んだとき、当たっていると思う人が多いから信じるのであろう。しかし、血液型で行動のパターンを説明する人たちによって、性格の二面性が巧妙に使われている。いわばトリックである。このように説明されれば、説明不可能なことは存在しないのであり、だれでもよく当てはまるように思ってしまうのである。

④ 被暗示性が強く、権威に弱い人ほど、記述内容を無批判に信じ込んでしまうことが知られている。女子生徒・学生など若い女性に、こうした傾向が強い。

星占いのように、自分で楽しんでいる向きにはたいして影響がないと考えられていたのであるが、この現象がこうじて、科学的な根拠があると信じて疑わない信奉者が、幼稚園や保育所で、血液型で幼児を理解し、幼児の血液型に応じて保育方法を区別しているとか、会社で血液型を参考にして人事採用や配置転換を行っているとかの話が聞かれるようになった。

ここまでくると、もはや人権問題である。笑ってはおれない、打ち捨てておけない状況にきたと、心理学や医学の専門の立場から警鐘を鳴らす人が出てきた。また、1980年代に入って、これらの状況を批判し、反証する大真面目なテレビ番組や雑誌記事が次々と現れたことも、見落とすことができない。

専門的な立場からは、血液型性格学は否定され、血液型と性格との間には直接的にはなんの関係もない、というのが定説である。それは、次のような事実があるからである。

① 血液型性格判断の弊害が問題になってきたので、心理学者などによる血液型性格判断の吟味が行われた。いずれも血液型性格判断の主張を否定するものばかりであった。

② 血液型という物質（生化学）領域のものと、性格という心の領域のものを結び付けるところに無理がある。両者を関係づける仮説さえないのが現状である。

③ 血液型は、完全に遺伝で決まる。もし血液型性格判断が正しいとするならば、私たちの性格は基本的には遺伝によって規定されていることになる。しかも、血液型は4種類しかない。われわれの性格は、後天的に環境の影響を強く受けており、「十人十色」といわれるように千差万別である。とても、4種類しかない基本型からは説明できない。

④ 得られたデータの中には、統計的な関連性が見出だされた場合もあるが、因果関係は説明できず、またそのメカニズムも証明できない。

⑤ 今日の血液型人間学の提唱者たちは、数万、時には数十万という人たちから基本データを得たといいつながら、その根拠となる具体的データを示していない。

⑥ 批判に対して、独自の客観的テストに基づいたデータで科学的事実であることが立証されている、などと説明しながら、証拠となるデータを発表しようとしない。

⑦ 数量的なデータを挙げて、調査対象や実施時期などを示さなかったり、血液型別の対象者数を記載しなかったりで、結果も概数報告になっている場合が多い。

1930年代にも血液型ブームがあり、医学の分野で多くの研究がなされたのであるが、今日、医学の専門家には、血液型性格判断を研究又は論議しようとする人はほとんどいない。それは、次のような理由によるものと考えられる。

① 科学的・学問的に取り上げる問題としては、あまりにも馬鹿馬鹿しく、真面目に研究・論議する気になれない。

② 医学の分野で、血液型と心理の関係などという部門を研究している専門家がない。

③ 血液型研究の以前の経緯を知っている人は、人間差別や戦争協力や派閥抗争との関連を思い出し、関わりあいたくないと思っている。

Ⅲ 血液型性格判断の歴史

1900年、K. ラントスタイナーによって ABO 式血液型が発見されて以来、血液型をめぐって、世界的に次のような研究がなされてきた。それは膨大な数に達する。

① 血液型の生科学的特性（物質構造）の研究

② 目や髪をはじめ、身体各部分との比較など形質の研究

③ 疾病（ガン、コレラ、ペストなど）との関係の研究

④ 犯罪者や精神病など、精神状態との関係の研究

⑤ 知能や性格、行動などとの関係の研究

①～④の研究は、医学関係者が直接に関与したものであるが、主にヨーロッパで研究された。②④の研究はドイツで、③の研究はイギリスで関心がもたれ、数多くの研究がなされた。社会的要因が加わる人間の性格や行動との関係を研究する⑤は、日本で着目され、多大な関心がはらわれた。

日本で血液型と性格の関連について着目し論及したのは、原 来復・小林 榮（1916）が最初である。そして、ABO 式血液型と人間行動のパターンとの関連について、体系的な研究を

したのは教育学者・古川竹二で、最初の論文「血液型による気質の研究」は1927年に発表された。古川学説に対しては、次のような反応を示した人がいた。

- ① 古川学説に魅力を感じ、ほとんど無条件にそれを受容し信奉した人。
- ② 興味ある現象だとして紹介に努めた人。
- ③ 証拠をあげて、肯定論（あるいは否定論）を展開した人。
- ④ そのようなはずはない、といってやみくもに拒絶反応を起こした人。
- ⑤ 古川学説を基礎にして新しい性格理論を樹立した人。

これらの人たちのなかにも様々な人がいて、初め信じていたのに、後で不信に陥った人もいれば、逆に、初め懐疑的であったのに、途中から強烈的な信者になった人もいた。

1930年から33年にかけて、日本の軍隊で血液型の研究が盛んに行われたことから、第一の血液型ブームが発生した。その理由としては主に次のようなことが考えられる。

① 軍隊内の様々な集団の血液型の分布を調べ、その集団に課せられた行動を遂行するための最適の血液型者を把握しようとした。

② 疾病と血液型との関連を調べようとした。血液型は、体質型であり、人間型であるとされていたので、血液型と罹病率との関係を調べれば、体質型や人間型の謎が解ける、と考えられた。

③ 古川学説で明らかにされた血液型別気質の特徴を利用して、戦闘のためのよりよい軍隊を作ろうとする試みがなされた。兵士の管理が意図されたのである。

しかし、第一血液型ブームは、1934年以降急速に衰えていった。血液型をめぐる研究者同士の対立、N医大の派閥抗争事件などがあったからであるが、なによりも研究成果が不毛であったことが原因であった。

1930年代の第一の血液型ブームが消滅してから約30年後、第二の血液型ブームが発生した。1970年代以降の、第二の血液型ブームのきっかけを作ったのは著述家・能見正比古で、1971年『血液型でわかる相性』を出版したのが始まりである。以後、この21年間に出版された単行本の種類は、専門・学術書や小説等を含めて実に231冊（筆者調べ、末尾目録参照）に達する。そのうちの104冊（45%）は、仕掛け人・能見正比古とその息子・能見俊賢、そしてもう一人の仕掛け人・鈴木芳正の3人によって世に送り出されている。1980年代の後半に入って、一見ブームは下火になったかの様相をみせたが、相変わらず書店の棚には血液型性格判断の本がずらっと並び、新刊も次々と出版されている。

以上の二つの血液型ブームを支えたのは、「血液型と性格」がなんらかの意味で科学的に関連がある、という思い込みである。1930年代のブームは、「科学的」にまどわされた多くの学者が様々な角度からデータ集めに取り組んだことによるものであるが、1970年代のブームは、その時のデータをあたかも自分が調査したかのように見せかけ、信じ込ませた作為的な仕掛け人がいたことによるものである。

そして、前者は、専門的な立場から、多くの研究が学会や雑誌で発表された結果生じたもの

であったが、後者は、少数の人の著した大衆向けの単行本が次々と大規模な形で書店で売り出された結果生じたものである。

結果的には、第一の血液型ブームのきっかけを作った古川竹二も、第二の血液型ブームのきっかけを作った能見正比古も、ともに血液型と性格との関係について大きな誤りを犯していた。両者の違いは、古川竹二が学問的信念を基礎にした誤りであったのに対して、能見正比古は権威や迷信に弱い大衆の心理を巧みに利用した作為的な誤りであった。

IV 血液型性格判断の今後の課題

まだ続いている第二の血液型ブームにどう対処するか。将来、第三の血液型ブームの発生による害毒を未然に防ぐためにも、専門的な立場からは、科学的な吟味を行うとともに、次のような取り組みが必要である。

① 非科学的と思われることでも、日常生活に役立つものは科学的な事実に準じて活用していかなければならない。トリック、虚偽、でたらめなどと思われることでも、最初からそう決めつけしないで、証拠を集めて確かめることが必要である。

② 非科学的なことでも、どこが非科学的なのか、どこがごまかしなのか、どこが間違っているのかを明らかにし、大衆に知らせることが大切である。

③ そして、特に多くの人々に非科学的なものを科学的なものとして押しつけ、不当な利潤をむさぼるようなものに対しては、容赦なく立ち向かわなければならない。

専門的立場からの血液型性格研究のアプローチとして、大村政男（1990）は次のような方法をあげている。

- ① 古川竹二の血液型気質相関説の歴史的研究
- ② 能見正比古によって粉飾された血液型性格学の研究
- ③ 心理学の標準検査による各血液型者の性格研究
- ④ 血液型性格学を信じている人の性格研究
- ⑤ 対人認知様式における血液型性格学の研究
- ⑥ 血液型ブームの研究

一般人としては、今後、どう受けとめ、どう対処したらよいか。妄信して、過剰適用するところに問題が生じるのであるから、次のような余裕と冷静さが求められる。

① 血液型で性格を云々するとき、科学的根拠はまったくないので、「星占い」と同じと考える。遊びの一つとして受け止め、その解釈を楽観的に楽しむようにする。罪のない「茶飲み話」にとどめておけば、なんら実害は生じない。

② どんな本についても言えるが、立派な装丁の本だからなどと言って、書いてあることをすべて鵜呑みにしてはいけない。大切なのは、本の内容が本物かにせものかを見分ける力である。とくに、科学がからんだ内容には注意が必要で、「そう書いてあるけれども、本当にそうなのか」と疑問の態度を持つことである。

血液型に関する年次別文献目録

1. 単行本(年次は初版発行年)

1932(昭和7)年:出版冊数=1冊

古川竹二『血液型と気質』三省堂(学術書)

1935(昭和10)年:出版冊数=1冊

古畑種基編『血液型の文献集』金原商店(学術書)

1936(昭和11)年:出版冊数=1冊

富士山『血液型』克誠堂書店(学術書)

1948(昭和23)年:出版冊数=1冊

古畑種基『民族と血液型』村松書店(学術書)

1960(昭和35)年:出版冊数=2冊

長谷川公之『血液型の秘密』小説刊行社(春陽堂書店, 1967)(小説) / 古畑種基『血液型学』医学書院(1966, 改訂第2版)(学術書)

1962(昭和37)年:出版冊数=1冊

古畑種基『血液型の話』岩波書店(学術書)

1966(昭和41)年:出版冊数=2冊

立川熊之助『ママの血液型』毎日新聞社(学術書) / 野田金次郎『血液型とその臨床』診断と治療社(学術書)

1970(昭和45)年:出版冊数=1冊

石坂洋次郎『血液型などこわくない!』文芸春秋社(小説)

1971(昭和46)年:出版冊数=1冊

能見正比古『血液型でわかる相性』青春出版社

1972(昭和47)年:出版冊数=1冊

古畑種基『血液型を考える』雷鳥社(学術書)

1973(昭和48)年:出版冊数=7冊

鈴木芳正『A型人間』産心社 / 鈴木芳正『O型人間』産心社 / 鈴木芳正『血液型相性学』産心社(光文社, 1984) / 鈴木芳正『血液型人間操縦法』産心社 / 鈴木芳正『B型人間』産心社 / 野田金次郎『血液型の新しい知識』南山堂(第3版, 1976)(学術書) / 能見正比古『血液型人間学』サンケイ新聞社出版局

1974(昭和49)年:出版冊数=6冊

鈴木芳正『AB型人間』産心社 / 鈴木芳正『血液型性格学』産心社(三笠書房, 1986) / 鈴木芳正『血液型による教育相談』産心社 / 田中樹生久『血液型と人材開発』白桃書房 / 能見正比古『血液型愛情学』サンケイ出版(角川書店, 1983, 青春出版社, 1985) / ローラー, S. D. ほか著・山川振作訳『血液型の遺伝』河出書房新社

1975 (昭和50) 年：出版冊数= 3 冊

鈴木芳正『A型は知能犯?』産心社/鈴木芳正『血液型嫁姑学』産心社/早川善郎『血液型の知識』日本臨床衛生検査技師会(学術書)

1976 (昭和51) 年：出版冊数= 8 冊

鈴木芳正『A型の相性』産心社/鈴木芳正『AB型の相性』産心社/鈴木芳正『O型の相性』産心社/鈴木芳正『B型の相性』産心社/能見正比古『血液型活用学』サンケイ出版(角川書店, 1984; 青春出版社, 1986) / 能見正比古『血液型スポーツ学(陸上競技篇)』講談社/松木 明『日本民族の血液型』津軽書房(学術書) / 松本秀雄『血液型の知識』金原出版(増補第2版, 1979; 改訂3版, 1982)(学術書)

1977 (昭和52) 年：出版冊数= 2 冊

新版日本血液学全書刊行委員会編『血液型と輸血(新版)』丸善(学術書) / 能見正比古『血液型エッセンス』サンケイ出版(角川書店, 1984, 青春出版社, 1986)

1978 (昭和53) 年：出版冊数= 9 冊

鈴木芳正『続A型人間』産心社/鈴木芳正『続AB型人間』産心社/鈴木芳正『続O型人間』産心社/鈴木芳正『血液型でわかる職業適性』産心社/鈴木芳正『続B型人間』産心社/能見正比古『血液型政治学』サンケイ出版(青春出版社, 1986) / 能見正比古『新・血液型人間学』けいせい出版(角川書店, 1983) / Lincoln, J. 著・緒方幸雄訳『血液型』近代出版(学術書) / リューイン, M. Z. 著・皆藤幸蔵訳『A型之女』早川書房(小説)

1979 (昭和54) 年：出版冊数= 7 冊

浅野八郎『血液型相性診断』池田書店/石山昱夫『血液型の話』サイエンス社(新訂版, 1989) / 鈴木芳正『血液型でわかる人物史 古代・中世編』産心社/鈴木芳正『血液型でわかる人物史 近世編』産心社/鈴木芳正『血液型でわかる幼児のしつけ』産心社/能見正比古『血液型人生論』日本文芸社(角川書店, 1982; 青春出版社, 1985) / 能見正比古『血液型で人間を知る本』青春出版社

1980 (昭和55) 年：出版冊数= 16 冊

浅野八郎『血液型性格診断』池田書店/紅 亜里『血液型星占い』(星座別全12冊) 勁文社/鈴木芳正『血液型交際術』産心社(新装改訂版, 1985; 光文社, 1984) / 鈴木芳正『血液型でみる日本文学者』産心社/鈴木芳正『血液型でわかる人物史 近世・近代編』産心社

1981 (昭和56) 年：出版冊数= 11 冊

浅野八郎『血液型運勢診断』池田書店/大熊茅楊『血液型星占い』日東書院/紅 亜里『12星座血液型愛の相性占い』集英社/鈴木芳正『血液型相性占い』実業之日本社/鈴木芳正『血液型結婚相性学』産心社/流 智明『A型人間の星占い』日本文芸社/流 智明『AB型人間の星占い』日本文芸社/流 智明『O型人間の星占い』日本文芸社/流 智明『B型人間の星占い』日本文芸社/能見正比古『血液型女性白書』海竜社(角川書店, 1983; 青春出版社, 1985) / 能見正比古『血液型と性格ハンドブック』サンケイ出版(青春出版社, 1985)

1982（昭和57）年：出版冊数=17冊

伊集院大輔『血液型でよくわかる相性』池田書店／浦山可世『血液型星占い』光風社出版／大熊茅楊『血液型相性占い』日東書院／小田光雲『A型人間の十二支占い』日本文芸社／小田光雲『AB型人間の十二支占い』日本文芸社／小田光雲『O型人間の十二支占い』日本文芸社／小田光雲『B型人間の十二支占い』日本文芸社／鈴木芳正『血液型による親子関係術』ごま書房／鈴木芳正『血液型による子供のしつけ』第三文明社／鈴木芳正『血液型人間ドラマ Part 1』産心社／鈴木芳正『血液型人間ドラマ Part 2』産心社／鈴木芳正『血液型人間ドラマ Part 3』産心社／西村英夫『血液型らくらく受験勉強術』北辰堂／能見正比古『血液型ゴルファー学』サンケイ出版（青春出版社，1986）／能見正比古・能見俊賢『血液型つき合い相性学』青春出版社／松本道弘『血液型英語上達法』実業之日本社／ルネ・ヴァン・ダール・ワタナベ『血液型で人間判断』池田書店

1983（昭和58）年：出版冊数=18冊

伊集院大輔『血液型でよくわかるA型人間』池田書店／伊集院大輔『血液型でよくわかるO型人間』池田書店／打木城太郎『血液型人間模様』鷹書房／大熊茅楊『血液型人相占い』光風社出版／紅 垂里『血液型星座占い』廣濟堂出版／鈴木芳正『A型人間活用術』産心社／鈴木芳正『AB型人間活用術』産心社／鈴木芳正『O型人間活用術』産心社／鈴木芳正『血液型による夫の操縦法』産心社／鈴木芳正『血液型による夫婦関係術』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『血液型ビジネス相性学』グリーンアロー出版社／鈴木芳正『B型人間活用術』産心社／高山昊嗣『血液型麻雀必勝法』成美堂出版／西村英夫『血液型+性格別ズバリ!!驚異の読心術』松文館／能見俊賢『血液型おもしろ読本』文化創作出版／能見俊賢『血液型おもしろ第2読本』文化創作出版／能見正比古・能見俊賢『血液型おもしろパレー人間学』日本文化出版／ルネ・ヴァン・ダール・ワタナベ『血液型で結婚判断』池田書店

1984（昭和59）年：出版冊数=39冊

阿部 進『血液型教育法』サンケイ出版／伊集院大輔『血液型でよくわかるAB型人間』池田書店／伊集院大輔『血液型でよくわかる恋人との相性』池田書店／伊集院大輔『血液型でよくわかるB型人間』池田書店／稲田太作『血液型性格テスト』産心社／岩木弘太郎『血液型性格判断』新星出版社／小島白楊『血液型 九星占い』東京書籍／小林三剛『血液型十二支占い』新星出版社／サイエンス編集部編『血液型が決まるしくみ』日経サイエンス／志賀 貢『血液型恋のないしょ話』徳間書店／志賀 貢『血液型・こんな女と結婚したい』角川書店／情報研究所編『血液型の教科書』データハウス／真如里果『血液型+星占い』ひかりのくに／鈴木芳正『OLのための血液型オフィス游泳術』産心社／鈴木芳正『血液型GF交際術』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『血液型でわかる嫁姑の相性』産心社／鈴木芳正『血液型性格テスト』産心社／鈴木芳正『血液型セールス術』産心社／鈴木芳正『血液型積木くずし』グリーンアロー出版社／鈴木芳正『血液型BF交際術』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『血液型マネジメント』光文社／能見俊賢監『アイ Love 血液型』講談社／能見俊賢『血液型お

むしろデータバンク』現代出版／能見俊賢『血液型おもしろデータバンク Part 2』現代出版／能見俊賢『血液型おもしろ第3読本』文化創作出版／能見俊賢『血液型これだけ知ったら嫌われる』青春出版社／能見俊賢『血液型しつけ学』主婦の友社（講談社，1987）／能見俊賢『血液型受験突破術』三修社／能見俊賢『血液型チームワークのすすめ』東都書房／能見俊賢・浜田璋子監『血液型でやせる法』リイド社／能見俊賢編『血液型なぞとふしぎ』小学館／能見俊賢『血液型ビジネス読本』実務教育出版（講談社，1987）／藤森 真『血液型相性占い』金園社／星野齋太・永田徳治郎ほか『血液型のなぞ』学習研究社／森 一之進『血液型相性占い』ナツメ社／森田岐子『A型血液の少女』立風書房（コミックス）／森田岐子『B型血液悪魔の誘惑』立風書房（コミックス）／山田ゴロ『血液型なぞとふしぎ』小学館／ルネ・ヴァン・ダール・ワタナベ『血液型で愛情判断』池田書店

1985（昭和60）年：出版冊数=43冊

浅尾哲朗『血液型と音声による赤ちゃんの名づけ方』新星出版社／浅野八郎『血液型相性交際法』成美堂出版／浅野八郎『血液型占い・A型』日東書院／浅野八郎『血液型占い・AB型』日東書院／浅野八郎『血液型占い・O型』日東書院／浅野八郎『血液型占い・B型』日東書院／浅野八郎『血液型おもしろバンク』日東書院／阿部 進『血液型気質別教育法』KABA書房／伊集院大輔『血液型が教える男と女の未来』桃園書房／伊集院大輔『血液型別受験合格講座』池田書店／伊藤明日香『血液型+星座・相性占い』西東社／上原敬之典『血液型これだけ知れば金持ちになれる』ベストブック／上原敬之典『血液型ビジネス統率学』ビジネス社／上野天鼓『血液型大図鑑』プランニング秀巧社／大熊茅楊『血液型としぐさでみる好きな男の子の占い方』新星出版社／グループ・パフェタウン『血液型Q&A BOX』日本文芸社／紅亜里『愛が見つかる血液型星占い』実業之日本社／志賀 貢『血液型・体型別しつけ法』学習研究社／志賀 貢『血液型でステキな愛を見つけよう』大陸書房／志賀 貢『ドクターの血液型面白雑学事典』毎日新聞社／鈴木芳正『いきいきO型人間』産心社／鈴木芳正『A型のしつけ』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『AB型のしつけ』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『O型のしつけ』産心社（新装改訂版，1987）／鈴木芳正『血液型による妻の操縦法』産心社／鈴木芳正『すいすいA型人間』産心社／鈴木芳正『のびのびB型人間』産心社／鈴木芳正『はつらつAB型人間』産心社／鈴木芳正『B型のしつけ』産心社（新装改訂版，1987）／田中樹生久『血液型による面接成功法』光書房／能見俊賢『A型人間面白ゼミナール』曙出版／能見俊賢『血液型あの人，この人裸にすれば良くわかる』文化創作出版／能見俊賢監・小森豪人著『血液型なんでも大全科』秋田書店／能見俊賢・たかはしきょうこ『血液型別恋がみのる本』講談社／松本秀雄『血液型による親子鑑定』有斐閣（学術書）／森 一之進『血液型+星占い』大泉書店／森本毅郎の“TBS日曜ゴールデン特版”編『血液型人間学のウン』日本実業出版社／柳田実穂『血液型ハッピー占い』永岡書店／ルネ・ヴァン・ダール・ワタナベ『血液型+星占い人間判断』池田書店／ローズ摩琳『血液型&星座で占うトキメキ恋愛専科 A型編』新声社／ローズ摩琳『血液型&星座で占うトキメキ恋愛専科 AB型編』新

声社／ローズ摩琳『血液型 & 星座で占うトキメキ恋愛専科 O型編』新声社／ローズ摩琳『血液型 & 星座で占うトキメキ恋愛専科 B型編』新声社

1986（昭和61）年：出版冊数＝8冊

大西赤人『「血液型」の迷路』朝日新聞社／鈴木芳正『血液型による自己表現法』産心社（新装改訂版, 1987）／能見俊賢『血液型結婚学』角川書店／能見俊賢『血液型で恋上手になれる!!』現代出版／藤森 真『血液型相性星占い』金園社／森田岐子『AB型血液恐怖の黒髪屋敷』立風書房（コミックス）／矢田部順吉『性格とは何かー血液型性格論を信じるのは……だ?!』太陽出版／山本 茂『血液型』化学同人（学術書）

1987（昭和62）年：出版冊数＝1冊

南条 武『まんが 血液型判断』新星出版社

1988（昭和63）年：出版冊数＝12冊

カナ・ルーラ『A型人間のホロスコープ』高橋書店／カナ・ルーラ『AB型人間のホロスコープ』高橋書店／カナ・ルーラ『O型人間のホロスコープ』高橋書店／カナ・ルーラ『B型人間のホロスコープ』高橋書店／鈴木芳正『A型の相性度』産心社／鈴木芳正『AB型の相性度』産心社／鈴木芳正『O型の相性度』産心社／鈴木芳正『B型の相性度』産心社／能見俊賢『血液型恋愛学』講談社／松本道弘『血液型が教える英語の極意』橘出版／ルネ・ヴァン・ダール・ワタナベ『恋にサクセス血液型相性診断』池田書店／マリリン寺島『血液型別おまじない法』ワニブックス

1989（昭和64・平成元）年：出版冊数＝1冊

鈴木芳正『血液型でわかる結婚相性学』（『血液型結婚相性学』改題書）三笠書房, 1989

1990（平成2）年：出版冊数＝13冊

浅野八郎『フランス式血液型診断』ベストセラーズ／伊集院大輔『血液型性格チェック』新星出版社／大村正男『血液型と性格』福村出版（学術書）／鈴木芳正『A型人間とのつき合い方』産心社／鈴木芳正『AB型人間とのつき合い方』産心社／鈴木芳正『O型人間とのつき合い方』産心社／鈴木芳正『B型人間とのつき合い方』産心社／能見俊賢『血液型おしゃべり倶楽部』文化創作出版／能見俊賢『血液型ここまでわかれば恐くなる』広済堂出版／船越富起子『血液型A型の占い』日本文芸社／船越富起子『血液型AB型の占い』日本文芸社／船越富起子『血液型O型の占い』日本文芸社／船越富起子『血液型B型の占い』日本文芸社

1991（平成3）年：出版冊数＝8冊（年途中）

浅野八郎『血液型と心理学でわかる新しい性格判断』日東書院／アリアドーネ・ユウコ『A型星占い』永岡書店／アリアドーネ・ユウコ『AB型星占い』永岡書店／アリアドーネ・ユウコ『O型星占い』永岡書店／アリアドーネ・ユウコ『B型星占い』永岡書店／能見俊賢『相性がわかる血液型結婚学』広済堂出版／松田 薫『「血液型と性格」の社会史』河出書房新社（学術書）／松本秀雄『血液型は語る』裳華房（学術書）

長谷川芳典「『血液型と性格』についての非科学的俗説を否定する」『日本教育心理学会第27回総会発表論文集』

林 春男「『サザエさん』ちの血液型」『日本グループ・ダイナミックス学会第33回大会研究論文集』

1986（昭和61）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第3報）」『日本応用心理学会第53回大会発表論文集』

大村政男「血液型気質説の回顧と展望」『日本大学心理学研究』第7号

関西大学社会学部社会調査室「〈血液型〉ブーム研究－人間関係ゲームの流行を探る－」『社会調査報告書』

溝口 元「古川竹二と血液型気質相関説－学説の登場とその社会的受容を中心として－」『生物科学』第38巻1号

1987（昭和62）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第4報）」『日本応用心理学会第54回大会発表論文集』

溝口 元「古川竹二『血液型人間学』事始め」『科学朝日』7月号

溝口 元「軍隊と血液型気質相関説」『生物学史研究』49号

1988（昭和63）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第5報）」『日本応用心理学会第55回大会発表論文集』

大村政男「血液型気質説についての研究」『日本大学人文科学研究所研究紀要』第35号

坂元 章「対人認知様式の個人差とABO式血液型性格判断に関する信念－いわゆる「血液型性格判断」を否定する－」『日本社会心理学会第29回大会発表論文集』

1989（昭和64，平成元）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第6報）」『日本応用心理学会第56回大会発表論文集』

大村政男「科学と偽科学の対決－血液型性格学の虚構性－」『日本応用心理学会第56回大会』小講演

大村政男「血液型気質相関説の批判的研究」『日本大学人文科学研究所研究紀要』第38号

大村政男「血液型性格学者の創造と冒険」『創造性研究』第6号

大村政男「古川竹二の血液型気質相関説－埋もれた心理学史を尋ねて－」『日本教育心理学会第31回総会発表論文集』

1990（平成2）年

梅村隆之「ここまできた『血液型狂時代』」『週刊朝日』12月14日号

大村政男「人格心理学者 古川竹二：人とその思想」『日本心理学会第54回大会発表論文集』

大村政男「血液型性格学, クオ・ヴァディス」『さいころじすと』第23号

1991 (平成3) 年

上瀬由美子・松井 豊・古沢照幸「血液型ステレオタイプの形成と解消に関する研究」『立川短期大学紀要』第24号

松井 豊「血液型による性格の相違にかんする統計的検討」『立川短期大学紀要』第24号

(注：紙面の制限で、若干の論文を除外せざるを得なかった。また、収録分についても、掲載ページ等を省略せざるを得なかった)

(1991. 9. 3)

2. 主な雑誌論文・調査・学会報告（年次は掲載・報告年）

1916（大正5）年

原 来復・小林 榮「血液ノ類属的構造ニ就テ」『医事新聞』954号

1922（大正11）年

高山正雄「血球による父子の科学的鑑別」『太陽』6月号

1926（大正15, 昭和元）年

平野 林・矢島登美太「人血球凝集反応ニ就テ」『軍医団雑誌』157号

瀧野憲照「血液型ト神経疾患トノ関係」『神経学雑誌』26巻

1927（昭和2）年

坪倉 利「歩兵第12連隊兵卒ノ血液型ニ就テ」『軍医団雑誌』169号

中村慶蔵「血液種属ト兵卒ノ個性ニ就テ」『軍医団雑誌』169号

古川竹二「血液型による気質の研究」『心理学研究』2巻4輯

古川竹二「血液型による気質及び民族性の研究」『教育思潮研究』1巻1輯

1928（昭和3）年

王丸 勇「各種精神疾患ニ於ケル血液群型ニ就キテ」『神経学雑誌』29巻1号

大西永次郎「血液検査による気質研究の要旨」『医事公論』833号

長沢政隆「血液群型ト精神神経疾患トノ関係に就キテ」『神経学雑誌』29巻8号

1929（昭和4）年

浅田 一「犯罪捜査と血液型の話—個人識別法の大革命—」『科学知識』9巻7号

石橋無事「犯罪者ノ血液型ニ就テ」『社会医学雑誌』509号

金関丈夫「血液型と人種心性との関係」『生理学研究』6巻9号

岸 孝義・上道清一「血液型と気質との関係に就テ」『社会医学雑誌』505号

騎兵学校研究班「血液型による気質の研究」『騎兵月報』5号

古川竹二「気質ノ血液型ニヨル研究」『社会医学雑誌』504号

古川竹二「血液型と気質との関係について」『心理学論文集Ⅱ：日本心理学会第2回大会報告』

古畑種基「血液検査は危険か？—問題視されるその心理学への応用—」『騎兵月報』第5号

三宅益順「囚人血型ニ就テ」『実地医家と臨床』6巻1号

1930（昭和5）年

秋吉良文「所謂主義者（思想犯人）ノ血液型ニ就テ」『社会医学雑誌』527号

大岩博雅「血液型ト精神型トノ関係ニ就テノ研究」『海軍軍医会雑誌』19巻5号

角田真一・永山太郎「血液型ト気質トノ関係並ニ第九師団管下ニ於ケル血液型ノ地方的分布ノ概況」『軍医団雑誌』208号

清水茂松「人の気質と血液型」『現代』12月号

林 真学「血液型ト軍隊成績ニ就テ」『軍医団雑誌』202号

1931（昭和6）年

- 浅田 一「血液型と気質との関係研究者の為に」『犯罪学雑誌』4巻1号
 浅田 一「吾教室の血液型研究に関して」『民族衛生』1巻3号
 浅田 一「血液型と気質」『診断と治療』18巻1号
 浅田 一「血液型応用の鑑定実例」『警察協会雑誌』368号
 浅田 一「団体の血液型」『優生学』2月号
 石川七五三二「血液型に基く個性型の研究」『愛知県児童研究所紀要』6輯
 大阪血液型研究所「宗教家の血液型」『血液型研究』1巻3号
 大阪血液型研究所「通信技術者の血液型」『血液型研究』1巻3号
 大阪血液型研究所「スポーツマンの血液型」『血液型研究』1巻3号
 鈴木 清・松谷博治「軍隊教育一指針トシテノ血型ト個性ニ就キテ」『軍医団雑誌』217号
 長尾美知「血液型と結婚問題」『血液型研究』1巻3号
 橋爪 恵「共産党員の血液型」『中央公論』8月号
 藤井綏彦「精神病者ノ血液群型」『神経学雑誌』33巻
 古川竹二「驚くべき新発見 血液で職業と結婚の適否が分る」『実業之日本』34巻5号
 古川竹二「血液型より見たる台湾蕃人と北海道アイヌ人の民族性」『犯罪学雑誌』4巻2号
 古川竹二「血液学の話—血液型と気質及び団体性—」『中央公論』8月号
 古川竹二「血液型と精神現象との関係並にその応用方面の研究」『心理学研究』6巻1輯
 古畑種基「血液型研究の進展と国際的協力の必要」『民族衛生』第1巻3号

1932（昭和7）年

- 石川七五三二「血液型心理学」『血液型研究』1巻5号
 石川七五三二「血液型と疲労実験」『個性研究』創刊号
 石川七五三二「教育者の血液型」『個性研究』1巻4号
 石橋無事「犯罪者と血液型」『犯罪科学』2月号
 岩波 浩「海軍兵学校生徒の血液型と諸観察」『犯罪学雑誌』5巻4号，6巻1号
 王丸 勇「体質学的方面より観たる血液型」『犯罪学雑誌』5巻4号
 大田外正「小学校教師の血液型」『血液型研究』1巻8号
 久保良英「血液型による気質判断の偶然適中率」『応用心理』2巻4号
 久保良英「自己判断による性格と血液型との関係」『児童研究所紀要』12巻
 菅原佐平「第二艦隊乗員ノ血液型検査成績ニ就テ」『海軍軍医会雑誌』21巻4号
 武内文次「陸軍砲兵の血液型に就て①・②」『血液型研究』1巻12号，2巻2号
 田中秀雄「血液型学説研究の先決問題」『血液型研究』2巻2号
 田中秀雄「血液型と気質との関係に就いての小実験」『心理学研究』7巻1輯
 谷岡壽長・高倉永次「歩兵第30連隊兵員の血液型と其統計的観察」『犯罪学雑誌』6巻3号
 塚本 宗・青木 式・武藤経世・真鍋九一・矢可部軍司「軍艦八雲乗員ノ血液型ニ就テ」『海

軍軍医会雑誌』21巻1号

速水寅一「犯罪者の血液型に就て」『東京医事新誌』2779号

速水寅一「犯罪者の血液型」『優生学』7月号

藤沢秀圃「犯罪者の血液型1～5」『血液型研究』1巻5・7・8・9・11号

正木信夫「古川氏による気質型と血液型との関係に就いて」『東京医事新誌』2807号

松村楯男・木下政市「ルンペンの血液型に就て」『東京医事新誌』2762号

丸山芳登「血液型（血清学的個人型）ト気質トノ相関問題」『台湾医学会雑誌』31巻7号

三宅徳三郎・橋本敏雄「所謂劣等児に於ける血液型と気質との関係に就いて」『東京医事新誌』2795号

村田鳳策「鉄道職員血液型の一研究」『血液型研究』2巻1号

1933（昭和8）年

石西 進「三井山野炭坑漆生第一坑に於ける全坑夫の血液型検査成績並其の統計的観察に就ての一考察」『血液型研究』2巻11号

岩井勝二郎「血液型と気質」『応用心理研究』1巻2号

勝矢信司「血液型ニヨル気質ハ分類セラレ得ルモノナリヤ」『犯罪学雑誌』7巻2号

勝矢信司「『血液型と気質』に就て古川氏の答を読みて」『医海時報』2019号

川畑是辰「僧侶の血液型に就いて」『血液型研究』2巻7号

小南又一郎「血液型研究の現勢と其実施方法」『生理学研究』10巻2号

田中秀雄「血液型と気質」『犯罪学雑誌』7巻

寺島良子「血液型と知能との関係に就て」『東京医事新誌』2828号

鳴海 顕「私娼と血液型」『血液型研究』3巻1号

野中弥六「帝国海軍ニ於ケル血液四型比率ノ種々相ト之ガ団体体力度（又ハ団体健康度）指標トシテノ意義ニ就テ」『海軍軍医会雑誌』22巻2号

原田福象「血液型ヨリ見タル機関兵ノ適性ニ就テ」『海軍軍医会雑誌』22巻1号

古川竹二「血液型と気質の問題に対する勝矢教授の批判に答ふ」『医海時報』2014号

正木信夫・越後一雄「金沢市3小学校ニ於ケル血液型並ニ血液型ト気質トノ関係ニ就テ」『十全会雑誌』38巻

守安直孝「血液型に因る気質類型説に就て」『犯罪学雑誌』7巻4号

守安直孝「血液型と個性標徴との関係」『応用心理研究』1巻3号

守安直孝「血液型による心理学的個性類型説の批判」『優生学』12月号

守安直孝「血液型に依る気質類型説の批判」『血液型研究』2巻7号

1934（昭和9）年

秋田重義「患者の血液型と疾患とに関する統計的観察」『血液型研究』4巻2号

井上日英「血液型別ニ観察シタル軍隊教育ノ成果ニ就テ」『軍医団雑誌』256号

岡部弥太郎・内山克己「血液型は気質を示すか—その職業との関係—」『教育』2巻1号

九大医学部研究学会「九州帝国大学生ノ血液型並ニ指紋調査報告」『九大医報』8巻2号
 河野司馬太「血液型ト体型トノ関係」『行刑衛生会雑誌』9巻
 早川 清・山田正次「通信兵ノ適性的研究」『軍医団雑誌』248号
 守安直孝「血液型に因る心理学的個性類型説の研究法に関する考察」『犯罪学雑誌』8巻1号
 吉田寛一「血液型と気質の相関説を排す」『日本学術協会報告』9巻4号

1935（昭和10）年

桑野 稔「自殺者の血液型に就て」『東京医事新誌』2月23日号
 北條春光「血液型ノ研究文献」『長崎医学会雑誌』13巻3号

1937（昭和12）年

浅田 一「血液型と気質の関係について」『日本医事新報』838号
 浅田 一「血液型と性格の問題について」『科学知識』8月号
 新垣恒政「血液型と性格」『科学知識』8月号
 平川浩一・石橋無事「血液型雑話」『行刑衛生会雑誌』12巻10号

1938（昭和13）年

浅田 一・川上理一・古閑義之「血液型気質相関説の検討」『日本医事新報』838号
 石橋無事「犯罪者ノ血液型ト個性調査成績ニ就テ」『行刑衛生会雑誌』13巻4号

1939（昭和14）年

荒井勝身「血液型団体性指数と其の積極性との関係に就て」『日本医事新報』948号

1960（昭和35）年

林 麟「血液型と神経型」『日本』9月号

1975（昭和50）年

萩田 徹「“血液型で性格がわかる”はウソだ」『宝石』2月号

1984（昭和59）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか」『日本応用心理学会第51回大会発表論文集』
 中向井政子・横田久美子・石田直子・相原まり子・大西清則「性格と血液型」『日本女子衛生
 短大紀要』第4号
 森田秀男・大村政男「血液型性格分析症の困った病巣」『週刊朝日』8月17日号

1985（昭和60）年

遠藤 健「シリーズ・こんなものいらない?!血液型性格判断」『朝日ジャーナル』3月8日号
 大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第2報）」『日本応用心理学会第52回大会発表論
 文集』

志水一夫「血液型人間学“批判”のウソ」『歴史読本』臨時増刊号, 1985

詫摩武俊・松井 豊「血液型ステレオタイプについて」『東京都立大学人文学部人文学報』172
 号

中原英臣・富家 孝「血液型人間学の嘘」『文藝春秋』1月号

長谷川芳典「『血液型と性格』についての非科学的俗説を否定する」『日本教育心理学会第27回
総会発表論文集』

林 春男「『サザエさん』ちの血液型」『日本グループ・ダイナミックス学会第33回大会研究論
文集』

1986（昭和61）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第3報）」『日本応用心理学会第53回大会発表論
文集』

大村政男「血液型気質説の回顧と展望」『日本大学心理学研究』第7号

関西大学社会学部社会調査室「〈血液型〉ブーム研究－人間関係ゲームの流行を探る－」『社会
調査報告書』

溝口 元「古川竹二と血液型気質相関説－学説の登場とその社会的受容を中心として－」『生
物科学』第38巻1号

1987（昭和62）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第4報）」『日本応用心理学会第54回大会発表論
文集』

溝口 元「古川竹二『血液型人間学』事始め」『科学朝日』7月号

溝口 元「軍隊と血液型気質相関説」『生物学史研究』49号

1988（昭和63）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第5報）」『日本応用心理学会第55回大会発表論
文集』

大村政男「血液型気質説についての研究」『日本大学人文科学研究所研究紀要』第35号

坂元 章「対人認知様式の個人差とABO式血液型性格判断に関する信念－いわゆる「血液型
性格判断」を否定する－」『日本社会心理学会第29回大会発表論文集』

1989（昭和64，平成元）年

大村政男「『血液型性格学』は信頼できるか（第6報）」『日本応用心理学会第56回大会発表論
文集』

大村政男「科学と偽科学の対決－血液型性格学の虚構性－」『日本応用心理学会第56回大会』
小講演

大村政男「血液型気質相関説の批判的研究」『日本大学人文科学研究所研究紀要』第38号

大村政男「血液型性格学者の創造と冒険」『創造性研究』第6号

大村政男「古川竹二の血液型気質相関説－埋もれた心理学史を尋ねて－」『日本教育心理学会
第31回総会発表論文集』

1990（平成2）年

梅村隆之「ここまできた『血液型狂時代』」『週刊朝日』12月14日号

大村政男「人格心理学者 古川竹二：人とその思想」『日本心理学会第54回大会発表論文集』

大村政男「血液型性格学, クオ・ヴァディス」『さいころじすと』第23号

1991 (平成3) 年

上瀬由美子・松井 豊・古沢照幸「血液型ステレオタイプの形成と解消に関する研究」『立川短期大学紀要』第24号

松井 豊「血液型による性格の相違にかんする統計的検討」『立川短期大学紀要』第24号

(注：紙面の制限で、若干の論文を除外せざるを得なかった。また、収録分についても、掲載ページ等を省略せざるを得なかった)

(1991. 9. 3)